

■ CIMの基本的な知識および3次元地形モデル作成の基本操作と機能を学びました。



設計や施工、維持管理といった、建設に関するあらゆる場面での導入が推進されているCIM（Construction Information Modeling/Management）について、基本的な知識を習得するとともに、パソコン・ソフトを使用しながら基本操作方法から3次元モデル作成まで、一連の流れを学びました。

- 1 日時 令和5年7月5日（水） 10：00～17：00
- 2 場所 中部インフラDXセンター（中部地方整備局 中部技術事務所内）
（名古屋市東区大幸南1-1-15 2階 研修エリア）
- 3 対象者 岐阜県内に本店が所在する建設関連企業の社員
- 4 参加者 16社 30名
- 5 内容

時間	研修内容	講師
9:30～10:00	（受付）	
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・CIM概要と動向の説明（講義） CIMの概要やR5原則適用（義務項目/推奨項目）等の説明 ・3次元CADの基本操作（演習） 3DCADの操作方法、3次元データの閲覧方法 2次元図面から構造物や河川モデルの作成 （使用ソフト：）V-nasClair、i-ConCIM_Kit 	川田テクノシステム 株式会社
12:00～13:00	（昼休憩）	
16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・3次元地形モデル作成（演習） 点群データの取込み、サーフェス（TIN）変換、オルソ画像 ・CIM成果物（演習） 成果物の閲覧、照査について ・CIM活用データの作成（演習） 走行シミュレーション（住民説明・可視化）、施工ステップ（4D） 造成モデルの土量計算、構造物モデルの数量計算 	
16:30～17:00	質疑応答、アンケート記入、閉講	

- 6 主催 建設ICT人材育成センター（（公財）岐阜県建設研究センター内）
- 7 CPDS・設計CPD 6ユニット、6ポイント（認定講習）

8 受講者の感想

- ・講師の解説が丁寧で分かりやすかった。
- ・概要や基本操作から説明があったので、一から勉強する立場でもやりやすかった。
- ・2D断面から3D断面にする機能は今後の業務でも使えそうだと感じた。
- ・走行シュミレーションは道路を設計するときに、住民説明の際に役立ちそうだと感じた。

以上